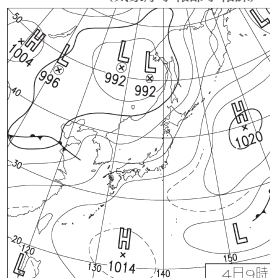


日々の天気図

— No. 78

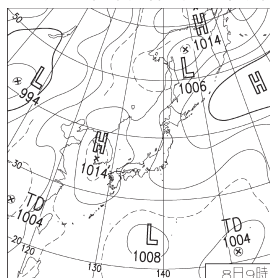
2008年7月

各地で局地的な大雨相次ぐ。
 ・4日、静岡県富士市 112.5 mm/1 h。
 ・5日、長崎県杵臼空港 102 mm/1 h。
 ・17日、熊本県宇土町 98.5 mm/1 h。
 ・25日、群馬県館林市 84 mm/1 h。
 ・28日、京都府京丹波市 81 mm/1 h。
 など。神戸市都賀川水難事故を始め、各地で浸水害、土砂災害、突風害。
 (気象庁予報部予報課)



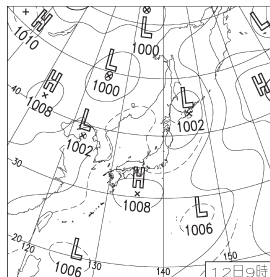
4日(金)静岡県で大雨

西日本は高気圧に覆われたが、九州は曇りて所々雨、その他は概ね晴れ。東日本は明け方から朝にかけて気圧の谷通過。静岡県富士市で112.5 mm/1 hの猛烈な雨。四国の梅雨明けを発表。



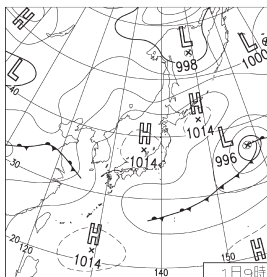
8日(火)北陸、近畿で激しい雨

寒気を伴った気圧の谷の影響で、引き続き大気の状態不安定。近畿～東日本の所々で40～70 mm/1 hの大雨。宮崎県西米良村で最高気温36.9℃。鹿児島県与論町で震度5弱の地震。



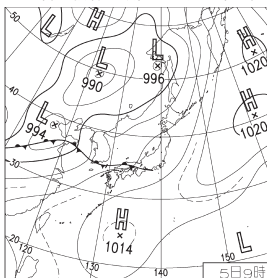
12日(土)東京で突風

西日本から東日本の広い範囲で猛暑日。静岡県の浜松市天竜で37.3℃の体温を上回る気温を記録。上空の寒気の影響で各地で雷雨。東京では樹木が倒れるなどの突風被害発生。



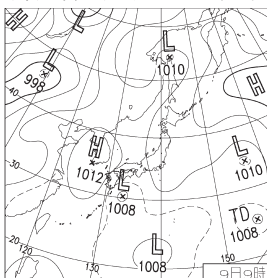
1日(火)奄美地方、梅雨明け間近

本州付近は、日本海に中心を持つ高気圧に覆われ概ね晴れ。沖縄近海では高気圧が勢力を強め、奄美地方は梅雨明け間近となる。一方九州の西から梅雨前線の活発な雨雲が東進。



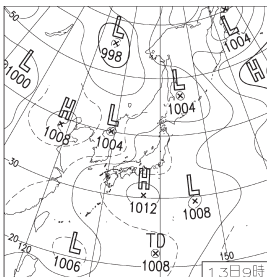
5日(土)長崎県で猛烈な雨

日本の東や南海上の高気圧に緩やかに覆われて南風流入。日中は気温上昇、所々で猛暑日。上空を寒気が通過し、全国的に大気の状態が不安定。未明、長崎県杵臼空港で102 mm/1 h。



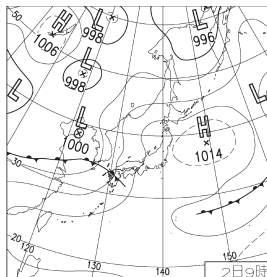
9日(水)西日本が真夏日

黄海に中心を持つ高気圧に覆われ西日本は晴れて各地真夏日。九州では猛暑日の所々。日本付近は引き続き大気の状態不安定で所々雨。奈良県五条市五条で46.5 mm/1 hの激しい雨。



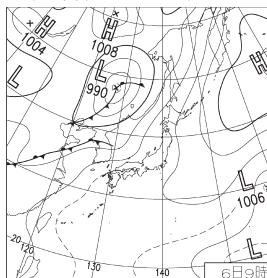
13日(日)山陰で激しい雷雨

本州付近は高気圧に覆われて晴れた所が多いが、上空の寒気や日中の昇温の影響で午後から不安定。山陰～関東甲信の山沿いを中心に雷雲が発達。鳥取市佐治町で67 mm/1 h。



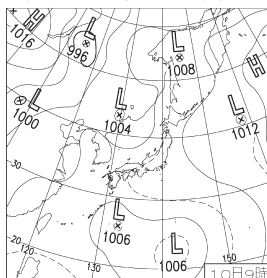
2日(水)奄美地方梅雨明け発表

西日本は梅雨前線の接近で雨となったが、東日本から北日本にかけては高気圧に覆われ梅雨の中休み。奄美地方は梅雨明けを発表。鹿児島県市瀬市の最高気温は33.7℃。



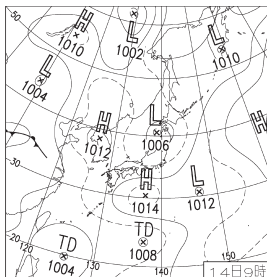
6日(日)九州梅雨明け

九州は南海上の高気圧に覆われ梅雨明けを発表。また、はるか東海上から張り出す優勢な高気圧に覆われ北海道と本州では晴れ。気温は高く、全国的に大気の状態が不安定。



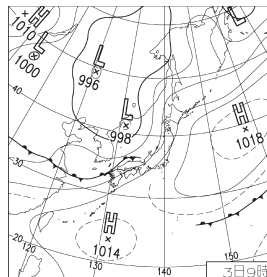
10日(木)南北蛇行の流れ 解消へ

日本付近で上空の流れはしばらく南北に蛇行していたが東西流へ移行。北日本の上空を寒気が通過。引き続き大気の状態が不安定で、北日本や山沿いを中心に所々で雨や雷雨。



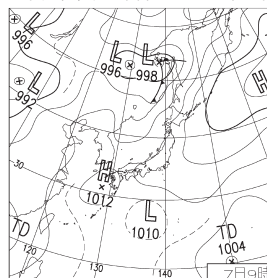
14日(月)東北～九州で雷雨

関東以西は南海上の高気圧に覆われて晴れ真夏日や猛暑日。上空寒気や日中の昇温により大気の状態不安定。埼玉県秩父市浦山61 mm/1 hで7月の記録更新。



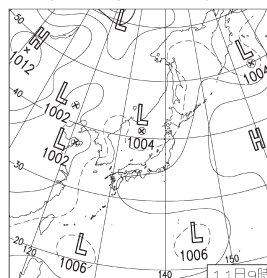
3日(木)本年初の猛暑日

西日本中心に暖かい南風が入り、気温上昇。香川県綾川町、宮崎県延岡市で猛暑日。地表の暖気に加え、上空には寒気流入。北陸や西日本で雷雨。岐阜県下呂市宮地で88 mm/1 h。



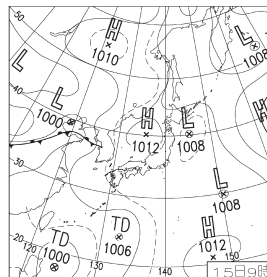
7日(月)七夕の夜空

大気の状態が不安定のため東北から東海にかけて局地的な雷雨が発生。岩手県山形村で62.5 mm/1 hの激しい雨。七夕の夜空が見られるのは西日本など一部の地域のみ。



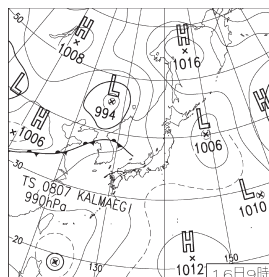
11日(金)北日本中心に寒気流入

上空に寒気を伴った低気圧が日本海を東進し、北日本では雨。九州～四国にかけてはよく晴れ、33℃以上の真夏並みの所があり、兵庫県朝来市、熊本県人吉市の最高気温34.3℃。



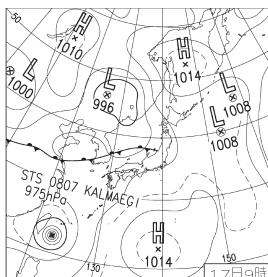
15日(火)台風第7号発生

湿った暖かい気流や上空寒気の影響で引き続き大気の状態が不安定。関東以西は山沿いを中心に所々で雨や雷雨。徳島県上勝町福原旭68 mm/1 hなど非常に激しい雨となった所も。



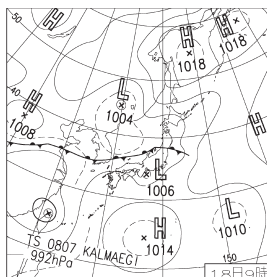
16日(水)台風第7号北上

台風第7号は、八重山諸島の南海上を北上、日本付近は高気圧に覆われ、晴れた所が多かったが、大気の状態が不安定で、関東の山沿いで雷雨。大分県日田市で37.4℃。



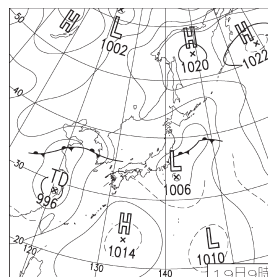
17日(木)日本海側中心の猛暑日

九州から東日本にかけては太平洋高気圧に覆われ各地、猛暑日。日本海に面した京都府の宮津市で最高気温36.4℃。九州、四国地方は湿った気流の影響で雷を伴った激しい雨。



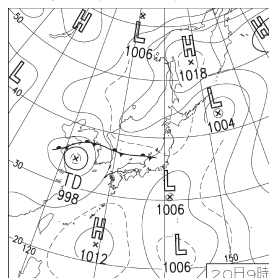
18日(金)暖湿気による不安定

梅雨前線は北日本をゆっくり東進。西～東日本は暖かく湿った南風が吹き込み、活発な雨雲や雷雲が次々発生、局地的に激しい雨。滋賀県米原市と虎姫町で50～60 mm/1 h。



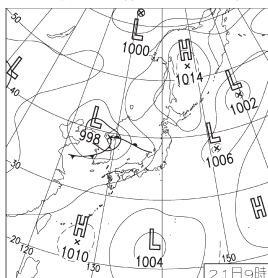
19日(土)東北まで梅雨明け発表

前線を伴った低気圧が三陸沖を東進。昼前まで曇っていた東北も次第に高気圧に覆われ概ね晴れ。暖かく湿った空気が流れ込んだ中国は午後所々で雷雨。東海～東北梅雨明けを発表。



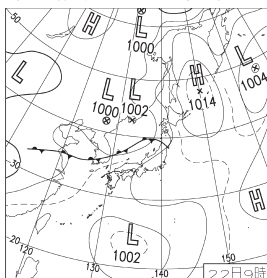
20日(日)北冷西暑

気圧の谷や前線の影響を受けた北日本～北陸で曇りや雨となった他は、九州南海上の高気圧に覆われて晴れ気温上昇。愛媛県大洲市で38.2℃など、西日本～東海は広く猛暑日。



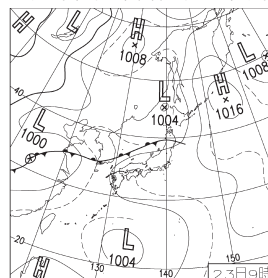
21日(月)天気は2極化

オホーツク海高気圧に覆われた北海道から東北の太平洋側は曇り、日本海側では晴れ。湿った気流の影響で関東も曇り。高気圧に覆われた西日本では晴れて猛暑日のところ多し。



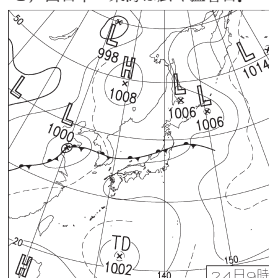
22日(火)二十四節気の大暑

北日本は前線の影響で曇りや雨の天気、西日本から東日本にかけては広く高気圧に覆われ曇どりの暑さ。兵庫県豊岡市では37.4℃を観測。熊本県山都町で67 mm/1 hのわか雨。



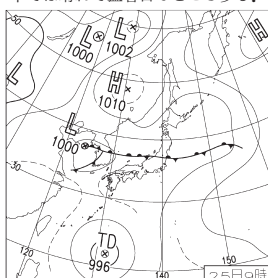
23日(水)北日本で大雨

日本海の低気圧と前線の影響で北日本は雨や雷雨。東～西日本は概ね晴れだが、湿った南風の影響により所々で激しい雨。京都府舞鶴市で最高気温38.6℃(年間の極値更新)。



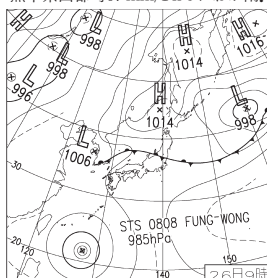
24日(木)岩手県で震度6強

黄海～三陸沖に前線が停滞。北陸から北は曇りや雨。北陸中心に雨。その他は太平洋高気圧に覆われて概ね晴れ。未明に岩手県北部で震度6強の地震。



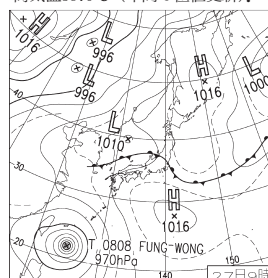
25日(金)台風第8号発生

黄海～三陸沖に前線が停滞。北陸以北は曇りや雨。他は概ね晴れも大気の状態不安定。群馬県館林市で84 mm/1 hなど関東は猛烈な雨や雷雨の所も。熊谷直径21 mmのひょう。



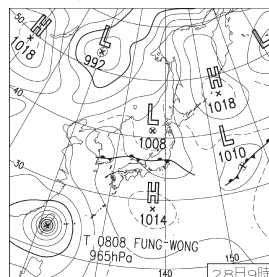
26日(土)東海～西日本は猛暑

太平洋高気圧が東海～西日本を覆う。一方、前線が山陰沖～東北部に停滞。東海以西はよく晴れ、岐阜県多治見市で最高気温が39.0℃となった他、各地で猛暑日が相次いだ。



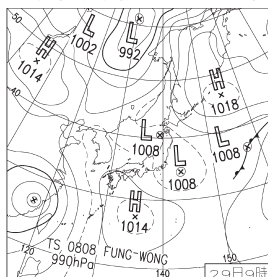
27日(日)発達した雷雲

西日本を中心に高気圧に覆われ各地で猛暑日。大分県大銅町では最高気温39.0℃を記録。前線に近い北陸では発達した雷雲のため福井県や石川県で突風の被害発生。



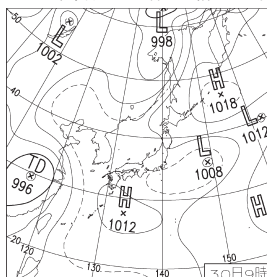
28日(月)北陸、近畿 猛烈な雨

活発化した前線が本州南海上を南下。北陸は朝まで、日中は近畿を中心とした西日本や東海で激しい雨や雷雨。石川県、兵庫県で河川の増水による被害発生。北日本は寒気による雨。



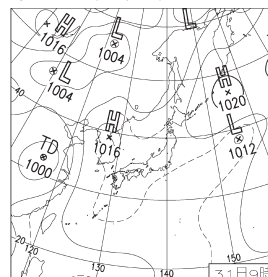
29日(火)関東以西で暑さ続く

関東以西では本州南海上の高気圧に覆われ、四国・九州の各地で猛暑日。愛媛県今治市では37.7℃で観測史上1位の記録更新。東北以南は大気の状態不安定、所々で雷を伴う強い雨。



30日(水)北冷西暑続く

引き続き東海以西は南海上の高気圧に覆われて真夏日や猛暑日となり、午後は山沿いを中心に所々で雨や雷雨。他は千島近海の高気圧が張り出し、北日本太平洋側は冷涼。



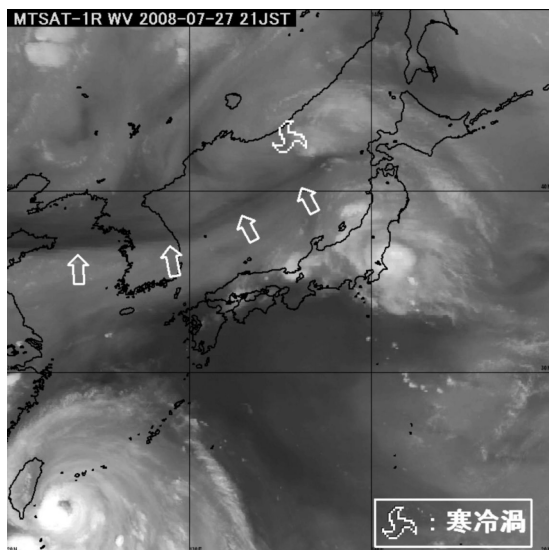
31日(木)気圧配置は変わらず

西日本は太平洋高気圧に覆われ真夏日や猛暑日が続く。暖湿気の影響でにわか雨の所も。千島近海の高気圧から吹く東寄りの風の影響で北日本を中心に曇り、気温は上がらず。

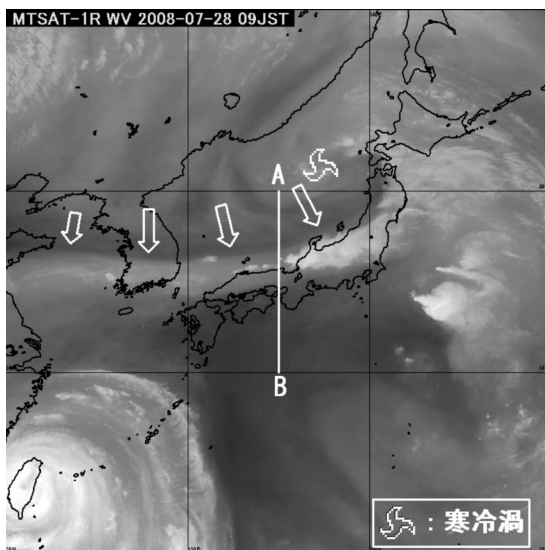


今月のひまわり画像—2008年7月

7月27日～29日の北陸地方～山陰地方の大雨



2008年7月27日21時（日本時間） 水蒸気画像



2008年7月28日9時（日本時間） 水蒸気画像

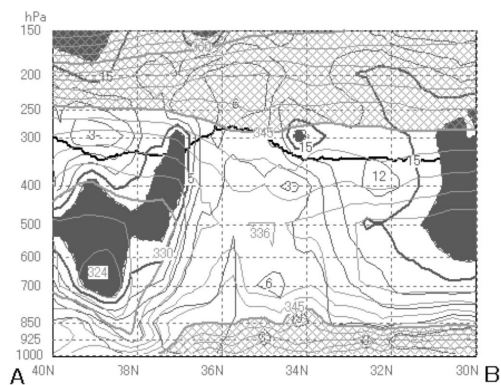
7月27日～29日にかけて、日本付近は上空の寒気と高気圧の縁を回る下層の暖かく湿った空気により大気の状態が不安定となり、中国・近畿・北陸・東北地方を中心に大雨となった。

28日は北陸地方や近畿地方を中心に局地的な大雨となり、10時までの5時間に富山県南砺市五箇山（ゴカヤマ）で142.5ミリ、石川県金沢市医王山（イオウゼン）で110.5ミリ、京都府京丹後市峰山（ミネヤマ）では13時30分までの1時間に81.0ミリの猛烈な雨となった。

29日は中国地方の一部で大雨となり、鳥取県岩美町岩井（イワイ）では、12時までの5時間に117.5ミリの観測した。また27日には福井県敦賀市で突風（ガストフロント）により死者1名の被害も発生している。

左上図は27日21時（日本時間）、右上図は28日9時（同）の水蒸気画像に上層渦（寒冷渦）とバウンダリ（暗域と明域の境界：図中矢印で示す）を重ね合わせたもので、このバウンダリの南進に合わせ、28日に北陸地方～近畿地方で強い降水域が発生した。

右下図はこのバウンダリの南北断面図（表示領域を右上図のA-Bで示す）で、相当温位が345 K以上の領域をハッチで、湿数18度以上の乾燥域を黒塗りで表



している。この断面図と水蒸気画像を合わせて解析すると、このバウンダリは300～500 hPaの乾燥域先端部分（湿数18度程度）と比較的対応が良く、下層（850 hPa以下）の高相当温位域と鉛直方向に重なった場所で、大雨や突風等の顕著現象を引き起こした様子が良く判る。

（気象庁予報部予報課 西村修司）